

式 辞

桜の花が咲き誇る今日のこの佳き日に、多数のご来賓、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立神戸北高等学校、第四十七回入学式を挙行できますことは、誠に喜ばしくうれしい限りでございます。本校職員を代表して皆様に厚くお礼申し上げます。

ただいま入学を許可しました一九九名の新入生の皆さん、神戸北高へようこそ。ご入学を心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、これからの高校生活に向けて夢と希望を胸に膨らませていることと思います。今日のこの喜びは、皆さんの努力の結果であることは勿論ですが、これまで慈しみ育んでくださったご家族、また小学校・中学校の先生方はじめ多くの方々の支えがあったからこそであり、その方々への感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

さて、皆さんは、新しい元号「令和」の始まりとともに神戸北高校に入学します。つまり、平成最後の入学生であるのと同時に、令和最初の入学生でもあります。このような新しい時代の幕開けとともに高校生活を始めることができるというのは、何十年に一度の極めて稀なことであり、皆さんの輝かしい将来を象徴しているようにも思えます。

一方、この県立神戸北高等学校は、昭和四十八年（西暦一九七三年）四月に開校され、もうすぐ創立五十周年を迎えようとしています。皆さんは四十七回生ということになります。

これから先、神戸北高校をより良い学校へと変えていくのは、ほかでもない皆さん、生徒の皆さんです。今日から北高生となる皆さんも、開校以来の伝統を受け継ぎ、後輩に伝えていってくれるものと期待しています。

「良き伝統を伝える」ということは、決して特別な行動をすることではありません。毎日学校で元氣

に過ごし、部活動や学校行事に積極的に参加すると
いったことが、学校の「伝統をつくって伝える」と
いうことなのです。

そのようにして北高生として高校生活の第一歩
を踏み出すに当たり、一つだけ皆さんにお話をした
と思います。それは「時間（とき）のデザインを
してほしい」ということです。

一日二十四時間という時間は、誰にも等しく与え
られたもので、人によって多い少ないはありません。
増えたり減ったりもしません。また、たとえば、友
達と一緒に受ける授業時間や一緒に活動する部活
動の練習時間というものは、同じ時間を共有してい
ることになりますが、同じ時間を過ごしても、取り
組み方、過ごし方によって違った結果・成果になる
ことがよくあります。

まずは、自分の、与えられた時間をどう使うのか
を決めてください。具体的には、放課後は部活動を

頑張るのか、家で過ごすのか、塾に行くのか等々を自分で決めてください。

次に、その決めた時間の過ごし方についても、最大の成果が出る使い方を自分で考えて実行してください。

大切なことは、時間の使い方をデザインするのは自分自身であること。決して先生や保護者、友達ではない、ということです。その意味で時間（とき）のデザインの責任は皆さん自身に返ってきます。

新しい環境に戸惑うこともあり、時間をどう使って良いのか判断に困ることもあるかも知れません。そのときは頼りになる先輩が、先生がいます。どうか遠慮なく相談してください。

皆さんは、本日よりこの北高の一員です。一日も早く学校に慣れ、先輩たちとともに勉強や学校行事、部活動に思う存分力を発揮してください。

ここで、保護者の皆様に申し上げます。本日は、お子様のご入学、おめでとうございます。

私ども教職員は、厳しさの中にも愛情をもって、また、人間的なふれあいを基盤として、お子様方の自己実現を支援するため、最善の努力をする所存でございます。どうか、本校の教育に格別のご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、四十七回生の皆さん一人一人が、今日からの三年間、充実した高校生活を送り、こころ豊かで自立した人間として立派に成長していくことを願い、式辞といたします。

平成三十一年四月八日

兵庫県立神戸北高等学校長

長澤 和弥